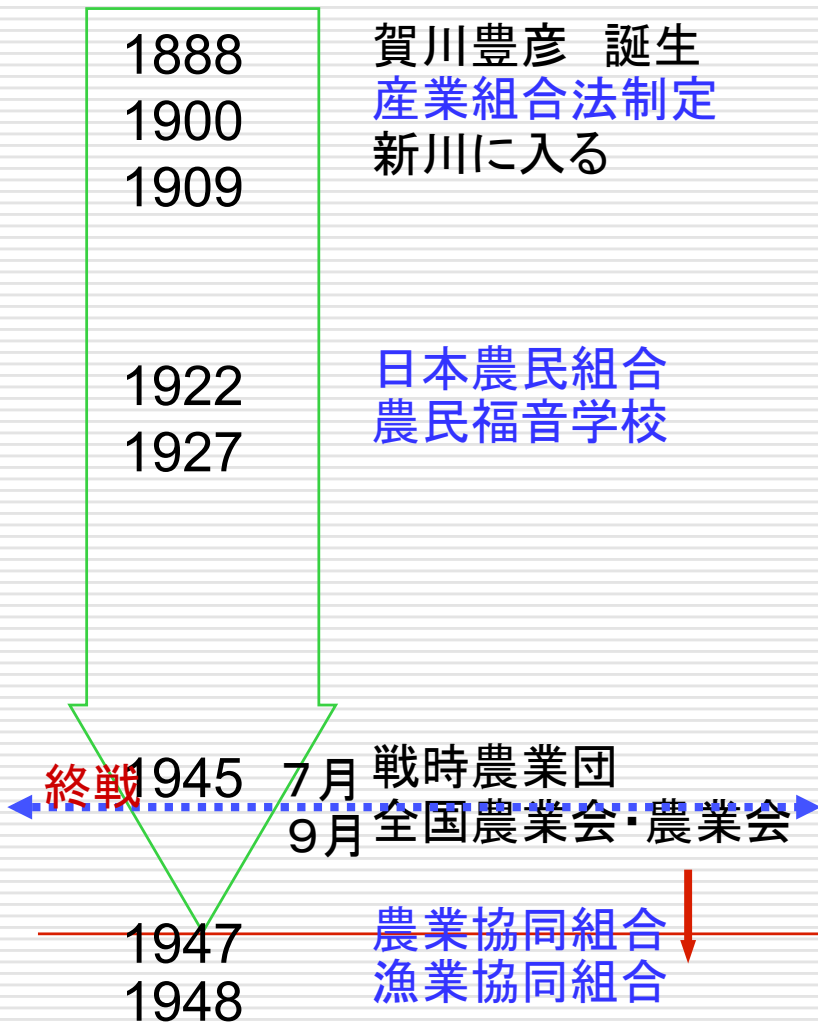


研究発表 賀川豊彦と社会事業の関わり

農業協同組合 & 漁業協同組合
～産業組合・ギルドにスポットをあてて～

石田規矩子・柳瀬啓子・伊藤潤子

発表のながれ



□ 産業組合

～法の施行に伴う国の動き～

□ 農業協同組合

- 日本農民組合
- 農民福音学校

□ 漁業協同組合

□ ギルド(組合)

～社会運動進める中でのイメージ～

賀川豊彦の活動

はじめに1.

農業協同組合について

- 1947年農業協同組合法にもとづく
- 農地解放がなされたものの、自作農の農地手放し懸念され、GHQは農民の自立と協同を意図して欧米型の農業協同組合をイメージして法制化した
- しかし、当面は戦後の食料不足から、生産力の増進に力がそそがれることとなった(統制と保護)

はじめに1.

漁業協同組合

- 1948年 水産業協同組合法(1948年)による
- 中小漁業者、零細漁家等が経済的・社会的地位を向上させるために組織している協同組合

はじめに2.

農業協同組合への賀川豊彦の関わり

- 直接的な関わりは窺えないが…
幾つかルーツが紹介されている

- 黒田四郎著 「私の賀川豊彦研究」

「……農村を救うためにと1925年12月に大阪で農村消費協同組合を設立した。それがそもそも**現在の農協のスタート**であって……」

- 日本農民組合がルーツ

- 産業組合が生協・農協・信用組合・信用金庫のルーツ

●1949全国厚生文化農業協同組合連合会生命**保険**中央委員会・委員長

●1951全国**共済**農業協同組合連合会…共済の父

ルーツといわれる組織

1. 農村消費協同組合・・・大阪で生まれた
2. 日本農民組合・・・日本初の全国組織
3. 産業組合・・・・・・産業組合法の制定

1. についての資料が見つからなかったことから
2. 3. について調べていくこととした

産業組合（法）

産業組合法

産業組合

「産業組合」って業界団体？

- 「産業組合法」は、協同組合を定める法律
(1900年制定)
- 同法に基づく組織は協同組合
- 内務官僚などの渡欧の際の知見にもとづくもの
- 戦後 各「協同組合法」が制定されるのを待って
役割を終えた

産業組合法

産業組合と農民組合との関係

「産業組合」=ほぼ「農民組合」(圧倒的割合)

なぜ？

- 国民に占める農民の割合は7割余りに及んでいた
 - 農村の疲弊、農業政策上の必要性から農村を念頭に置いた法制であった(啓発普及は農務局農政課が担当)
- なぜ、産業組合法が制定され、どのように展開し、どのように戦後の農業協同組合につながっていったかを見る

産業組合法

産業組合法制定の背景

- この時代背景は、とりもなおさず賀川豊彦が活動した時代と重なる
- 彼が、農業に関わることになった背景でもある

背景1

- 明治政府は、富国強兵、殖産興業を旗印として近代化を急いだ
- 日清戦争(1894-1895)を経て日本は、**産業革命の段階**を迎えたといわれる
- 産業部門の成長過程において**食糧自給の確保**や**輸出伸張による外貨の獲得**が経済政策上の大きな課題であった
- **食料・農産物の安定供給・生産量増加は必須**
- **一方、生産者を潰してはならない**

背景2

- この時代、困窮する国民の大部分は農民であり中小生産者だった
- 急激な商品経済化に巻き込まれ、高利貸し資本の収奪によって窮乏化していった
- 農村には、封建制度が根強く残っていた
- 都市部においては、産業資本の展開によって労働運動が発生したり
- 社会主義思想が伝わるなど、社会問題が深刻化した
- これらを放置すると社会不安をもたらし、いまだ未熟な日本の資本主義の基盤を揺るがしかねないと考えられた

背景3.

当時の農村・農民についての記述より

- 1919年「日本農村の社会問題」によれば
総戸数:970万戸中 農家:545万戸(56%)
農民人口は約70%

負債総額:7億4600万円……困窮

……窮乏は筆舌に尽くせず……(1931年統計によると)ある村では借金のかたに身売りされた娘の数は467中150人……

農村金融の必要性
農閑期における副業の提案

- 自作農の半数は5反以下の小農
- 2000万農民のうち750万は1反の土地も持っていなかった

産業組合法

産業組合法の制定

- そのような背景のもと
はじめは、**信用組合**が念頭に置かれた
- しかし「**信用組合法案**」……審議未了、廃案
官僚品川弥三郎、平田東助による
- 農商務省の再提案「**産業組合法**」 1900成立
- その後数回の改正で信用組合と**兼営、連合組織**が認められた
信用・販売・購買・利用
- アジアで**最初の協同組合を規定**する法律であったことに大きな意義がある

産業組合法

賀川豊彦も著述の中で…

- 彼は「産業組合とその進路」において
- 平田東助、品川弥二郎を紹介したうえで、
- 「……ここに面白いのは、この制度を採用することになった真の目的は、当時日本にも入ってきて国民の間に漸次台頭しかけていた**社会主義思想を緩和防圧する為**であったということである…」と述べている

産業組合法

民俗学の創設者といわれる前に

柳田国男は「産業組合」担当の官僚だった！

- 柳田国男、1900年に農商務省に入省
- 配属先は農務局農政課
- 仕事は産業組合の啓発普及活動
- 農務官僚として、産業組合法の通解（解説書）を記している
- 協同組合についての研究者の多くが参考にしているものである

産業組合法

次の課題：産業組合の普及

- 明治30年代の産業組合の総農家数に対する組織率は**10%**にも満たなかった
- 主流の信用組合は、少数の地主から吸収した出資金で構成され、必然的に貸付資金運用も地主を対象としたものであった
- **1915年(大正4)**には1万1506組合にまで増加し、市町村への広範な設置されたものの、554万農家のうち 組合員農業者の割合は**19.3%**にとどまっていた
- 農家の半数を組織するに至ったのは大正末年(1925年)の「産組振興刷新運動」の展開を通してであった。
- 農家を**7割を超えて**組織されるのは昭和恐慌期(1930~)の農村対策であった「農山漁村経済更生運動」に呼応して、二度にわたって実施された「産業組合拡充計画」を通してであった。

産業組合へ**国の政策が集中** **義務付け：全戸加入・4種兼営・組合全利用**

政府による産業組合「普及」の段階に

ここに賀川豊彦の
農業への関わりが重なる

- 民間の動き
- 賀川豊彦の活動

産業組合普及の段階

民間における農村への関心

- 農業関係者・知識階級・宗教関係者など、海外の情報を吸収できる立場にあった人々が著作など行動に移している

1909年 賀川豊彦 新川へ
1914-17年 アメリカ留学

デンマーク ブームと
いわれた

- 内村鑑三(1911年デンマルクの話)
- ホルマン・那須皓訳『国民高等学校と農村文明』
1913年)
フォルクス スコーレの考えとして
10年近く先行
- 「新しき村」創設 武者小路実篤(1918年)

産業組合普及の段階

「新しき村」武者小路実篤

- 1918年宮崎県に武者小路実篤らの推進により創設された理想主義的な集団

影響：ロバートオーエン(ニューラーク:1768-1986)

- 桃源郷などと、批判もされた
- 今日に続く(本部：埼玉県毛呂)
- 「貴族のヒューマニズムにもとづく農業への関わりである」と強い自負と対抗意識を窺わせる賀川豊彦の記述がある

…武者小路一派の新しい村の運動もあるけれども、我々の運動は、新たに作るのではなく疲弊しきつた日本の村を9億円の借金を背負って、改造しよう₂₀ というのである…

産業組合普及の段階

賀川豊彦と産業組合

- 社会事業活動の中で解決すべき問題が多くあると認識
- 多くの著書・講演録が残っている(1930年～)
- 産業組合法を、ツールとして様々な分野に使いこなそうとした
- 様々な形で産業組合の普及させようとした
ex. 農民組合・消費組合・保険組合・漁業組合 etc.
- 当時の普及状況への憂い
- 協同組合の精神の欠如への憂い
- 教育の必要性が述べられている

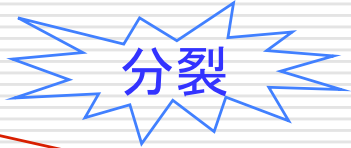

産業組合普及の段階

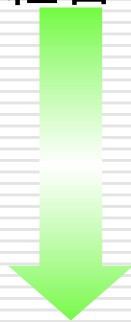
賀川豊彦と「日本農民組合」

- 1922年 日本農民組合
 - これ以前にも、いわゆる「農民組合」は数多くあった
 - **全国組織**として初めて創設されたという意味において農業協同組合のルーツ、もしくは大きな影響を与えたと評価される
 - **エピソード：資金援助・・・**
 - **村島帰之によれば**：印税10万円中2万円（現在の2億円）を日本農民組合費用として支出
 - **杉山元治郎の回想**：・・・資金が足りているといえれば機嫌が悪く、足りないといえればニコニコ顔で資金を出してくれました
-

賀川豊彦と農民組合

日本農民組合の設立・展開は複雑分裂・合同・解散

- 日本農民組合・・・1922年創立
- ~~1925年賀川豊彦身を引く~~
- ~~新たに全日本農民組合(杉山元治郎組合長) 設立~~ 
- 全国農民組合(全農)(杉山元治郎中央執行委員長)1928年 



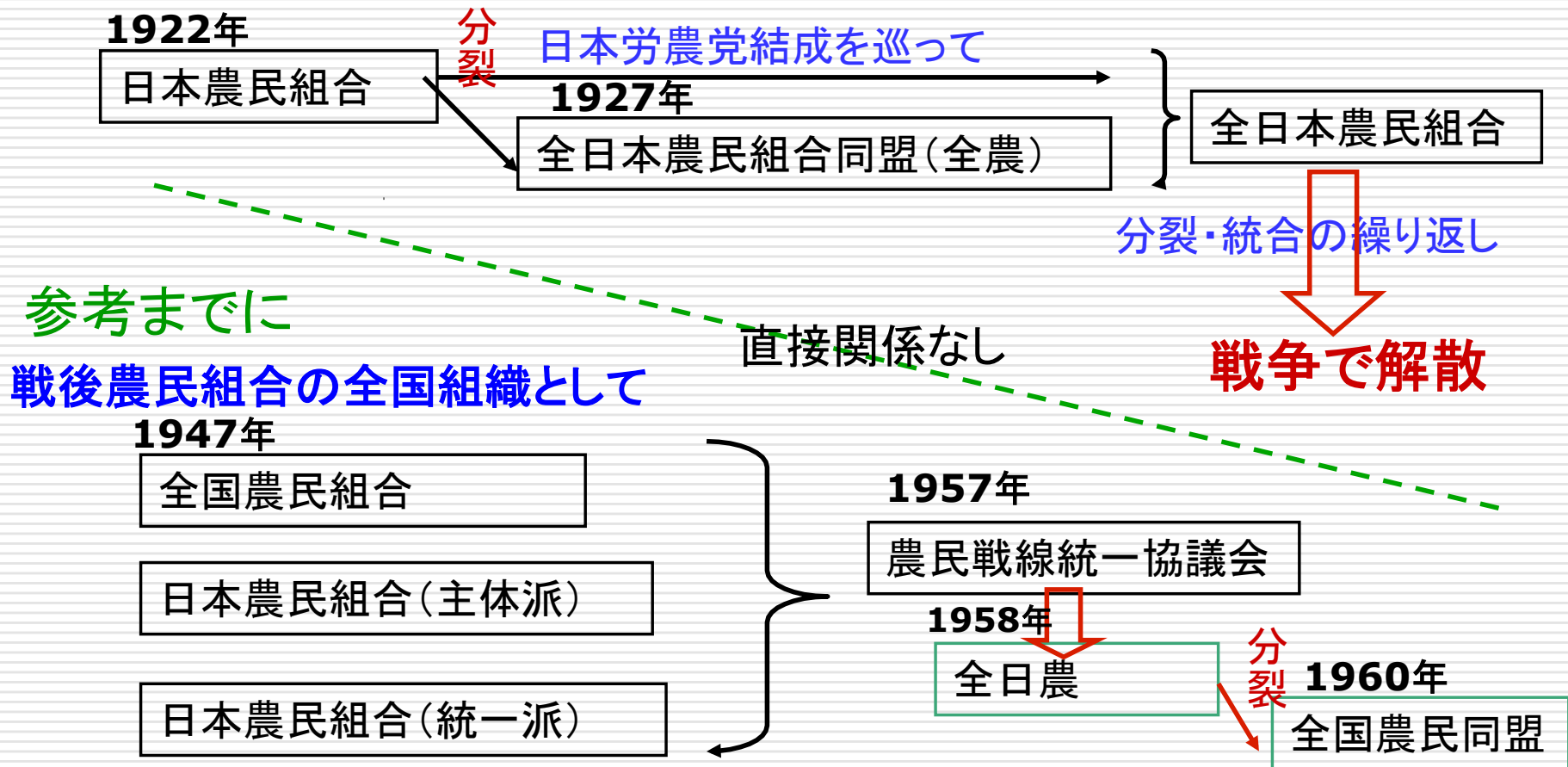
数回の分裂・合同を繰り返しつつも

農民運動の主流となった

- 解散 (戦時体制のため) ……1938年

賀川豊彦と農民組合

日本農民組合の変遷



賀川豊彦と農民組合

「日本農民組合」創立の経緯

- 社会状況：
 - 農村の困窮・窮乏
 - 杉山元次郎などの懇請
 - 労働運動の盛り上がり
- 各種農民組合の乱立・小作人組合の存在
- 1921年 ILO(国際労働機構)第3回大会に於いて 農業労働問題を取り上げた「農業従事者に結社の自由と権利の保障」決議
- 個人的状況：1921年労働運動から撤退
- 直接的きっかけ：大阪毎日村島の記事掲載

時機到来!

賀川豊彦と農民組合

農民組合運動 & 労働組合運動

- 「・・・労働組合の場合は既存の団体に、賀川が**途中から**幹部として入ったのに対し、杉山元次郎を起用して**創造した**ものである・・・」
- 日本農民組合(日農)・・・**キリスト者が中心**になって**異教徒の農村社会**に浸透していった
- 労働組合幹部としての経験が、組織としての農民組合に生かされたと考えられる
- とともに**産業組合**としての**労働組合**であり**農民組合**
- 1924年(T13)第3回大会帝国議会を目指す無産政
~~党樹立の方向に向けて踏み出す~~

賀川豊彦が

大きな力を注いだものの一つ

農民福音学校

賀川豊彦と農民福音学校

農民組合と農民福音学校

- 関係者の間で農民に教育が必要との認識があった
- 1913年の福島県小高町農民高等学校は、杉山元治郎の実践と経験によって感じた必要性に基づく？
- 賀川豊彦の関わりでは、まず農民組合（日農）の設立が先行
- 賀川が積極的にかかわるようになるのは、1927年頃のことである

農民組合と農民福音学校

賀川の活動の中での相互関係

□ 農業の実践……杉山元次郎氏

福島小高教会の牧師

農民高等学校(1913年)

1917年 帰国

1918年 友愛会

1922年 労働組合運動からの撤退

賀川豊彦

杉山の懇請に「…少し待ってくれ…」と言っていた賀川

□ 日本農民組合の創立 ……組織化の必要性

日本で最初の全国組織

□ 農民福音学校の創立 (1927年)……人づくりの必要性

賀川豊彦と農民福音学校

農民(福音)学校幾つかの流れ

先ずはキリスト教の牧師が中心になって **フォルケ ホイスコーレ(国民高等学校)**

- 1913年 農民高等学校(杉山元治郎)
- 1924年 渋川民衆高等学校(栗原陽太郎牧師)
- 1927-42年 日本農民福音学校(賀川宅)
- 1930年 御殿場農民福音学校高根学園
- 1933-55年 武蔵野農民福音学校(藤崎盛一)
- 1947-77年 豊島農民福音学校(同上)

立体農業研究所併設

- ① **プロテスタント主流派の日本基督教会の牧師らによるもの**で、教会などの施設を間借りして期間限定で開講され、30年代には全国各地で活発に開催された日本に農民組合や農業協同組合を作る大きな力ともなった
- ② **内村鑑三の弟子ら無教会派によるもの** 広がりはないが、現在に続くものもある
- ③ **加藤完治による**(行動主義的農本主義)

賀川豊彦と農民福音学校

賀川豊彦の関わった農民福音学校

- 1927年日本農民福音学校
- 1930年御殿場農民福音学校高根学園
- 1932年武蔵野農民福音学校
- 1934年北海道農民福音学校

1932年前後 全国各地に農民福音学校ができる

産業組合の特徴と問題点

- 4種兼営
- 政策としての産業組合
- 問題点
- 戦争激化～敗戦に伴う産業組合の変遷と移行

終戦までの15年間

- 1931年 満州事変
- 1937年 日中戦争
- 1941年 第2次世界大戦

➤ 産業組合の大きな特徴・・・4種兼営 なぜ4種兼営？（⇒農協に引き継がれている）

- 成立当初は信用単営組合を中心としたものであった
 - 柳田国男によれば、本来的に4種兼営形態をとるべきで、恰も車の両輪のごときという（柳田国男『最新産業組合通解』（1902年刊）生産から販売に至る過程でそれぞれの組合がその機能を発揮することが下級人民の生活を改良し幸福を増進する結果となる
 - すなわち小産業者の資金欠乏を信用組合が補充し、生産資材の共同購入、器具などの共同利用による生産費の低下、そして共同販売による総収入の増大を販売組合が担う
-

➤ 政策としての産業組合

産業組合(法) & 協同組合をどう理解するか

- 生産量を増やすための手段であり、**生産政策**の一つである(酒匂常明 農商務省農政課長)
- 農民の生活向上と安定を目的とする**社会政策**の一つである(柳田国男 農商務省農政課吏員)

ともに**協同組合の普及が必要と考えた**

しかし**普及の仕方で大きな差**

柳田国男の考えは、**農民の生活の向上を目指す**という点で

賀川豊彦と共通

- しかし、その後農業政策を左右したのは**酒匂農政**
-

➤ 産業組合の問題点 ～精神性の欠如～

- イギリスでは自然発生的に「**私人の結合協力**によって」形成(ex.ロッジデール)
- 日本では「**国家権力の発動によって**」形成された
- 産業組合には協同と自助の精神が不可欠だが、**協同の倫理が確立しないままの制度導入だった**(柳田は、在来の「農村自治」にその精神を求めた)
- これに**戦後統制**が加わり、戦後農協の性格が規定されてしまう

➤ 産業組合の問題点 産業組合組織の発展における精神的支柱

(柳田国男『最新産業組合通解』(1902年刊)より)

- 産業組合の発展に**精神が重要**であることは、著書の随所にみられる
- 最も重視したのが**自助・自力・相互扶助**という**協同組合精神**
- また同時に**在来農村で見られる報徳社**の運動に**近親感**をもったようだ
- **経済と道徳の融合**こそが産業組合の発展を支えるものであるというのが柳田独自の農村協同組合論

➤ 産業組合の精神性の重要性

賀川豊彦も言及

- 兄弟愛意識の社会的自覚がなければ、あらゆる産業組合も何らの効用を持つものではない。・・・日本の産業組合は、今日までひな壇に飾られたように倫理運動の自覚も意識経済の根本認識も持たずして発展してきた。（「産業組合の本質その進路」(1940年)より)
- 産業組合は精神運動である・・・我が国を良き国とする為には、献身犠牲の精神を尽くすという決意を願いたい・・・村の組合の潰れている多くの例は、村の書記、中心人物が産業組合の金を放蕩に、女に、株に手を出して遣い込んだのが大きな原因です。要するに道徳なくして産業組合なし（「産業組合の本質その進路」(1940年)より)

➤ 産業組合の変遷と移行 戦時体制下での統制

- 1931年満州事変
- 1937年日中戦争
- 1941年第2次世界大戦

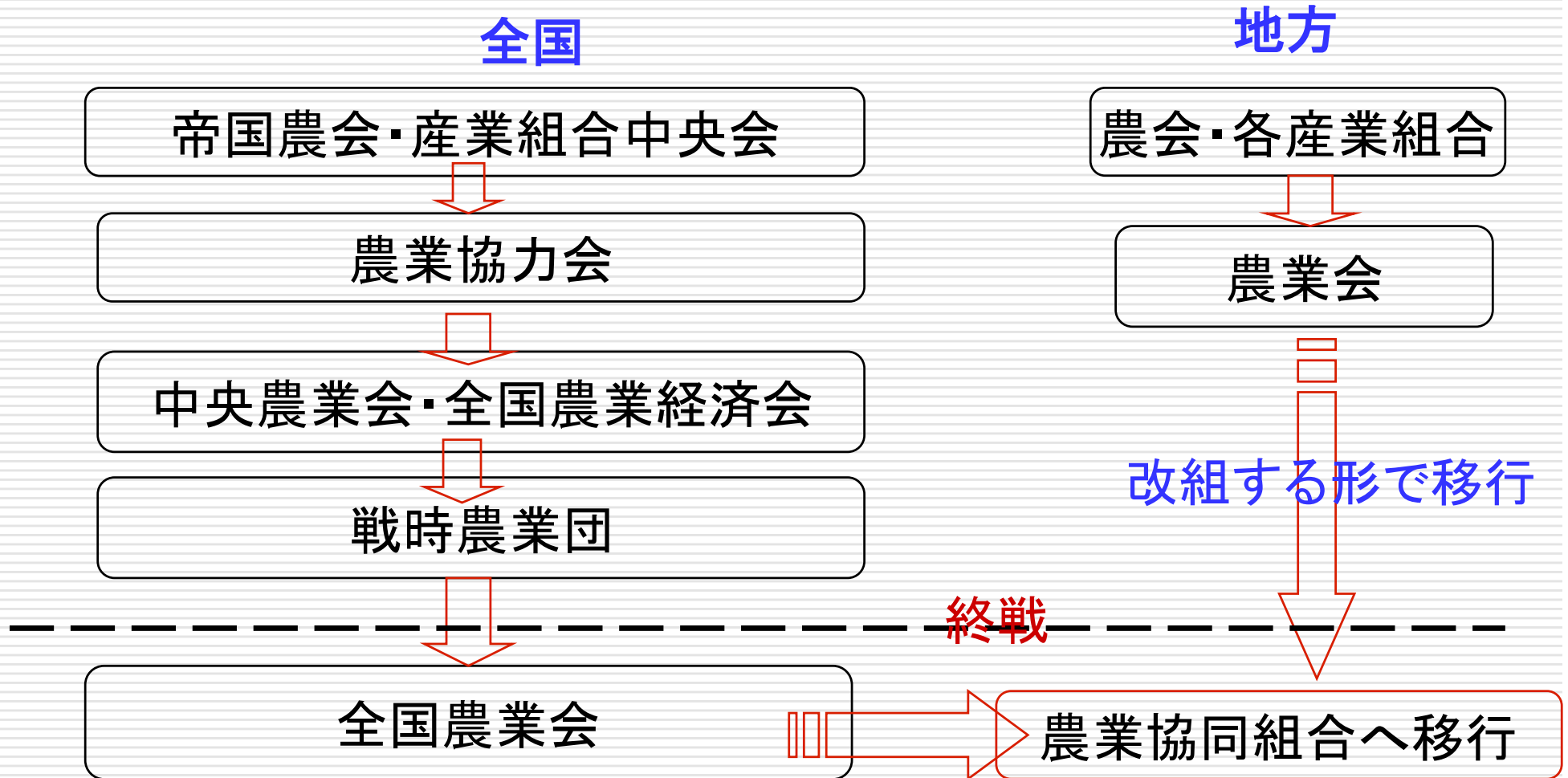
戦時体制の確立のため
「農業団体法」制定

- 産業組合中央会等7団体⇒中央農業協力会へ(1941年)
- 産業組合は、農会、養蚕業組合、茶業組合 ⇒ 農会へ
- 農会は、協同組合とは異質の国策代行機関となった

- 行政単位ごとに配置
- 強制加入
- 役員選出への行政関与
- 統制への服従義務

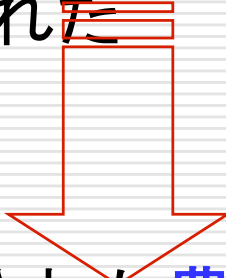
➤ 変遷と移行

図式で変遷を見ると



➤ 変遷と移行

第二次世界大戦後

- 占領政策により**農業会**は解散を命じられた
 - 農地改革を経て、自作農の(想定上)民主的な**農業協同組合**の設立が進められた
- 
- 各行政区ごとに設置された**農業会から移行**
 - 農業協同組合の**原型**は、**戦前期**においてすでに総合的な形態を**完成させていた**といわれている
 - 地域性に立脚した**統合性＝兼営主義**は、戦後の農協に引きつけられたと考えられている

産業組合と漁業協同組合

賀川豊彦の著作から

賀川豊彦と漁業協同組合

著述の主張・・・必要性の強調

(＊漁業組合の理論と実際(1940年)＊防貧策としての産業組合)

□ 漁村・漁民の貧困・困窮の様子

「・・・農村の貧民階級は非常に明朗になっているが、漁村は駄目なんであり
ます・・・漁業者の戸数55万戸中9割は大層貧しく意識にも若干欠けるので
あります……………」

□ 漁業協同組合の必要性

「・・・漁民が1で売ったら、我々は、5で買う・・・4抜かれている・・・」

「命がけでやったものが一番貧民生活をしている・・・」

「・・・これを是正するものは、漁業販売協同組合よりないのであります」

□ 産業組合による保険組合を提唱

・・・次に漁村について少し申し上げなくちゃならぬ・・・我が国の天候の特徴
から漁船難破が漁村・漁民に多大な影響を及ぼしていることから、保険が必
要……………」

□ ノルウェーとの比較

□ 漁業という特性と、キリスト教との折り合い

賀川豊彦とギルド

理想を見たギルド

賀川豊彦とギルド

賀川豊彦は著書の中で……

- ギルド(組合)を社会を変えることのできる仕組みとして高く評価

……ところで これって

歴史で習った あのギルド？

賀川豊彦とギルド

「一般的意味」におけるギルド

- キリスト教の友愛精神にもとづく
- メンバーが生活の様々な面で相互に助け合う
- メンバーは商人、手工業者の親方
- 身分的職業団体: 中世(11~12ctに成立)西ヨーロッパ
- 対内部: 平等にその経済的社会的地位を高め、共存共栄をはかれた
- 一般的: 厳しい徒弟制度のもと親方のみがメンバーであったことから、身分制度の固定化、自由競争の阻害との評価されている(17ct以降衰退)
- ギルドに支持された職業別の社会保障制度は21世紀まで残りドイツ社会の行動様式を規定したものとされている

賀川豊彦とギルド

ギルド社会主義（1913-28年）

- イギリスで展開された社会主義思想の一つ
- 生産者ギルドとしての労働組合だけでなく、消費組合、教会など職能別に組織された団体（ギルド）を多元的機能集団と位置付け、それを国の基本的構成要素として編成されたナショナル・コミュニティ（国家）によって現存の階級国家を克服しようとする考え方
- 国家に、各ギルド間の調整、秩序維持、財政通貨政策、防衛、外交などの機能を認めている。この意味においてサンジカリズムと異なる

賀川豊彦とギルド

ギルド社会主義のイメージ

- 1913-25年の間にイギリスで展開された社会主義思想の一つ

労働組合(生産者ギルド)

消費組合

教会

自治権を持つ職能別に組織された団体
(ギルド)

多元的機能集団を基礎に再編成
(各種ギルドを社会の基本的構成
要素として承認)

ナショナル コミューン(国家)

賀川豊彦とギルド

賀川豊彦のイメージするギルド組合

(産業組合の本質とその進路・自由組合論・ギルド組合の可能性より)

- 商業的資本主義に対して ← 消費組合
社会が付加している付加価値を社会(組織)が自営的に受け取る
- 工業的資本主義に対して ← 生産者組合＝労働組合
製造上の暴利をむさぼれないように⇒生産管理

暴力革命を用いずして 倒すことができるはずである

- 消費組合と生産者組合は、ギルド精神によって資本主義的自己中心の社会組織に変わって世を支配せねばならない
- 中央集権的なマルクス社会主義に反対して中世紀の宗教的結社を中心として発達したギルド社会主義に賛成するのである

賀川豊彦とギルド

推論

- 労働組合を「生産者ギルド」として、産業自治をイメージするなど、労働組合による生産管理の考え方、思想と共通したものがある
- 1917年のイギリスの労働党政権の樹立によって現実味を帯びたこの思想が 当時労働組合運動に関わっていた彼に大きな影響・刺激を及ぼしたのではないか

おわりに

まとめと感想

- まさに産業組合の普及期に精力的に農民協同組合、漁業協同組合を組織しようと活動した
- 杉山元治郎と共に直接的に関わった「日本農民組合」で初の全国的組織を作り上げた
- 組織化の大切さを示した
- 全人格的視点(精神の大切さ)を入れたこと
- 農業の将来を見据える視点を加えたこと
- 農民福音学校によって人と、精神を育てた

農業協同組合の素地を作る活動をしたといえる

ご静聴ありがとうございました